

平成 18 年度
「国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業」

業務報告書

平成19年3月23日

株式会社日立製作所

—目次—

各章は、本事業の仕様にに基づき定める。

I . ESD推進協議会の立ち上げ	2
II . 事業計画等の作成	5
III . 実態調査	9
IV . 広報	11
V . 関連資料	13

I

ESD推進協議会の立ち上げ

I. ESD推進協議会の立ち上げ

本地域では、ESD推進協議会として、「ひがたかネイチャー実行委員会」を立ち上げ、準備会合を含め、全14回の会合を開催した。同実行委員会の構成は、以下の通りである。

ひがたかネイチャー実行委員会(発足時) 計28名

- 【産】㈱日立製作所(1名)、賢庭造園道場(1名)
 【学】中部大学(4名)、春日井市立東高森台小学校(3名)
 【官】春日井市少年自然の家(1名)
 【民】春日井市立東高森台小学校PTA(2名)、任意団体かすがいきつちのすむ里山づくりの会(6名)
 任意団体やろみゃあエコみゃあ美しい公園都市・春日井(3名)、春日井市自然環境保全活動推進員(7名)

【ESD推進協議会による検討内容】

(1) 当該地域の特色を活かしたESDの内容

①目標

平成18年度は、6つの達成目標を設定し、事業モデルと推進体制の確立を目的に活動を行った。

表1 施策の施行状況

No	達成目標	具体的施策	状況
1	春日井市の自然環境再生事業のビジョン／中長期計画を立案	①春日井市と連携した「ひがたかネイチャー」事業計画の立案 ②事業モデルの客観的評価体制(外部評価)の確立	①事業計画を立案 ②専門家の協力のもと 評価手法／数値目標を設定
2	本事業への市民の参加促進を実現する仕組み作り	①春日井市との連携による市民を対象としたシンポジウムの実施計画の立案 ②メディア(新聞、TV、ラジオ)と連携した情報発信	① 小学校のPTA会 と連携した意見交換会を開催。 ② 中日新聞 にて発表。 東海ラジオ の参画。
3	小学校を対象とした段階的カリキュラムの基礎教科(理科・社会)との連携	①小学校高学年の段階的学習カリキュラム(環境、福祉、国際理解、物づくりなど)の立案 ②基礎教科(理科、社会)との連携による学力向上の実現	① 小学校4～6学年のカリキュラム 策定 ②学習指導要領に基づき、教科と連携
4	春日井市、及び近隣の市教育委員会との連携基盤の確立	①春日井市教育委員会と連携した教員対象の上記カリキュラムに関する研修制度の企画 ②近隣の教育委員会に対する本事業の告知	①春日井市の 小学校校長会 にて主旨説明
5	異業種、専門家と連携した実施体制の確立と本事業の質的向上	① 中部大学(経営情報学、都市建設工学など)との連携基盤の拡大 ②産官学コーディネーターの育成手法の明確化	①中部大学の複数学科(応用生物学、経営情報学等)と連携 ② 福祉／国際 の専門家の参加(心身障害者施設コロニー、名古屋ユネスコ協会等) ③中部大学の学生プロジェクトの設立
6	事業運営への学習者(児童・生徒、高齢者など)の参画	①春日井市の児童／保護者／高齢者のニーズ分析 ②春日井市子ども実行委員会／シニア実行委員会の発足と本事業企画への参画	①丘陵地区／市街地区にて アンケート を実施。 ②東高森台小学校に 子ども実行委員会「キッズESD」 を組織。

②本委員会の検討内容

No	月	日	段階	参加者数	主な検討内容		資料	
1	11	9	現状把握	24名	ESDの趣旨／狙いに関する情報共有 本事業における今後の活動計画／体制の把握		A	
2		24		12名	【春日井市の課題分析】 ①市の特長の把握 ②自然保護の現状把握 ③教育の現状	【第一次 実態調査の 計画立案(丘陵地区)】 ①調査方針の検討 ②調査観点の検討 ③調査方法の検討	B	
3		30		13名			C	
◆11月下旬 児童／保護者対象「第一次実態調査」(丘陵地区対象)の実施。								
4	12	7	課題分析	6名	【小学校における課題】 ①教員/保護者間での教育 ビジョンが非共有 ②学力低下/生きる力の育成 に向けた施策が未整備 ③地域との連携が未確立 ④教材/カリキュラムが未整備	【第一次 実態調査の 結果分析(丘陵地区)】 ①ニーズ抽出 ②課題抽出 ③本事業の妥当性の検証	D	
5		8		8名			E	
6		11		10名		中間事業モデル確立	F	
◆12月14日 シンポジウム「スタートアップESD」の開催(中間事業モデルの発表)								
7	12	14	事業モデルの策定	56名	【教育支援基盤の 課題】 ①講師の質の確保 ②教育施設の利用 の減少 ③人的基盤の 未確立	【第二次 実態 調査の計画立案 (市街地区)】 ①中間モデルの 修正 ②市街地区の調 査方針の検討	【評価方法の 検討】 ①体制の整備 ②観点の抽出	G
8		22		8名				H
9	1	18		14名				I
10		29		12名	事業モデルの確立			J
◆「プレス・リリース」による事業モデルの啓蒙。◆「カリキュラム検討会」でのカリキュラム策定。 ◆「校長説明会」における事業モデルの啓蒙。 ◆「第二次実態調査」(市街地対象)の実施。 ◆「シンポジウム『保護者ESD』」の開催(事業モデルの発表)。								
11	2	8	推進計画 策定	10名	【事業モデルの推進計画 策定】 ①目標値の設定 ②スケジュールの確定 ③体制の検討	【評価方法の確立】 ①評価基準 ②評価方法 ③評価員	K	
12		20		11名			L	
◆「計画調書」の提出。								
13	2	28	の次 準備 年度	5名	【里山大学との研究交流】 近畿大学との里山を通じた研究交流	【評価手順書作成】 ①評価基準、 方法等	M	
14	3	13		30名	【18年度の事業報告】 実行委員を対象とした事業報告		N	

(2)実施に関する課題とその解決方法

これまで、学校現場にて外部指導者を務めてきた委員たちだったが、ESDの特長である「活動の広がり」、「多様な主体の参画」を認識し、責任を持って教育に携わっていく必要がある。このため、各委員の活動内容を相互に理解し、批判しあうために9回(2ヶ月半)の実行委員会を「ESDの原則の理解」に充てた。具体的には、①春日井市に関する問題、②初等教育における問題、③地域の指導者と教育の関わり方に関する問題、とテーマを分け、相互批判を行った結果、各委員には新たなESDの価値観が生まれた。現在は、各委員自らが、率先的に本事業の企画に参画し、ESD的特長、狙いを他に伝えるまでに変化を遂げている。

Ⅱ

事業計画等の作成

Ⅱ. 平成 19 年度の事業計画及び平成 20 年度から2年程度の活動方針

事業計画

【中期目標】

＜教育活動の内容＞ 本事業「絆再生プロジェクト『かすがいKIZUNA』」では、多種多様な人間と自然が共生し合う春日井市において、「人と自然の命を尊ぶ心を育成」する。

本事業では、最小のコミュニティを学区と捉え、児童教育を中心に学区の希少な動植物と人間の共生環境を築く。【人と自然の絆】

また、自然と人間の共生環境を築く過程で、地域の多種多様な人の存在と課題を児童が学ぶ。さらに、多種多様な人々が共生しやすい社会を創造し、共生の証として、学区に「絆の樹」を植樹する。【人と人との絆】

＜ESDを推進する仕組み＞（１）事業内容

①【KIZUNAラーニング】～初等教育にて「自然の命を尊ぶ心を育成」する教育カリキュラム～

本事業では、自然を学習課題とした小学校4～6学年対象のカリキュラムとデジタル教材／eラーニングを整備／運用する。本KIZUNAラーニングは、以下の特長をもつ教育カリキュラムとする。

- (a) フィールドワークによる体験と教科学習の連動型カリキュラムにて、学習内容を相互に補完する。
- (b) 仮説を立案し、外部指導者の協力のもとに検証・行動する問題解決型教育である。
- (c) 小学校の年間行事(保護者参観や保護者懇親会等)と連携し、親子共同学習場面を創出する。
- (d) eラーニングにて教材を整備する。さらに本eラーニングを通じて、外部指導者が、各々の専門性(知識や経験)を活かし、個々の児童の疑問や関心に対応した指導を行う。
- (e) 地球温暖化や森林破壊などの世界の諸問題を理解し、グローバルな視野を育む。
- (f) 学習の初期段階、中間、終了段階に親子共同テストを行い、教育効果を測定する。

上記の学習活動を経て、児童と保護者に、教育目標である「自然の命を尊ぶ心」を育成する。

※2007年度は、ギフチョウエリアの学区において、「ギフチョウの個体数と自然環境の変化の因果関係」を中心とした教育カリキュラムを実施する。

②【KIZUNAコミュニティ】～自然観察環境を通じて「人の命を尊ぶ心を育成」する共生プログラム～

「KIZUNAコミュニティ」では、「KIZUNAラーニング」を通じて発見した自然の課題／重要性を、学区に住む住民(幼児／高齢者／障害者など)に発信する。また、児童と住民が一体となって自然を保全することで、人と自然が共存するための生活環境を構築する。

まず、社会福祉協議会や心身障害者施設コロニー、福祉活動推進団体で・ら・しえんが、児童に対して人権・共生教育を実施する。これにより、学区に存在する多種多様な人々の存在や特長、生活上の課題を理解する。また、これらの多様な人々が利用しやすい自然環境を整備し、調査／観察／活動を支援するガイドブックを作成する。さらに2回／年の共生プログラムを開催し、児童自らが住民の手を取り、共に調査／観察／活動を行う。これらの活動をもって、共生の証である「絆の樹」植樹祭を実施する。

一連の学習活動を経て、児童に、教育目標である「人の命を尊ぶ心」、そして連帯感を育成する。

※2007年度は、ビオトープを中心とした自然環境を整備し、共生プログラムを実施する。

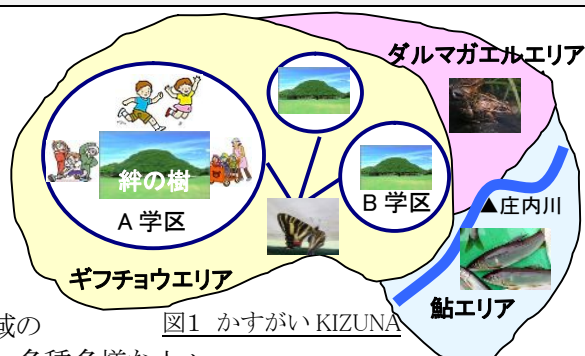


図1 かすがいKIZUNA

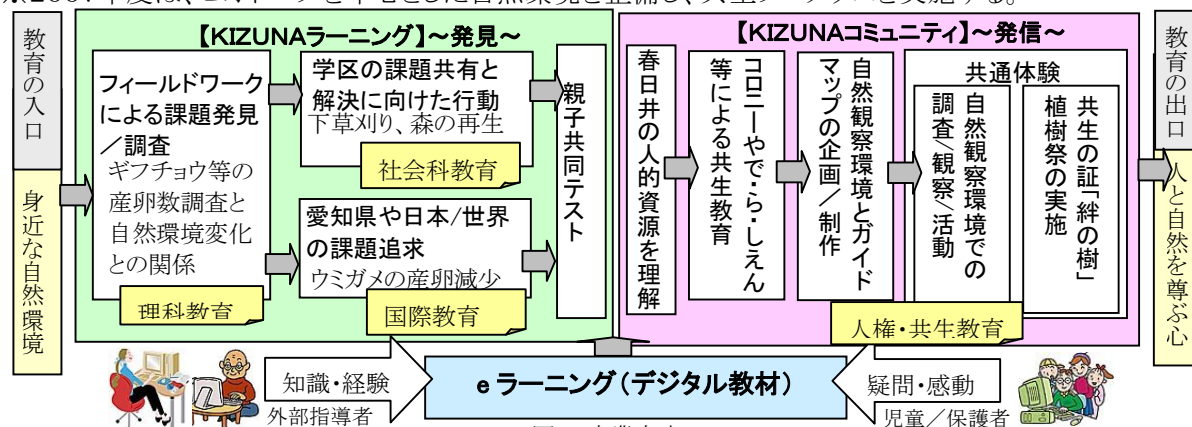


図2 事業内容

(2) 事業基盤

① 本事業の推進組織【かすがい KIZUNA 推進室】の設立

2006年度に設立した「ひがたかネイチャー実行委員会」の14名の委員を中心に、本事業を推進する「かすがいKIZUNA推進室」を2007年度に設立する。本推進室は、中部大学に拠点を置き、春日井市、及び他市／他県への「かすがいKIZUNA」の情報発信センターとする。本推進室は、2016年度の春日井市内全域38学区への展開を目指す。また、2011年度には、NPOとして法人化する。

② 本事業を展開する【KIZUNA コーディネーター】の育成

「かすがいKIZUNA」を展開するため、各学区に展開する「KIZUNAコーディネーター」が必要である。本推進室では、中部大学と連携し、大学生を対象に上記コーディネーターを育成する。2007年度は、中部大学の大学3～4年生を対象に、OJTにて育成を行うが、2010年度には中部大学の科目と連携し、育成カリキュラムを確立する。育成カリキュラムでは、コーディネーターに必要な専門知識や社会性、経営力などを養う。

【平成 19 年度事業の目的・目標】

1. 事業の創設: 絆再生プロジェクト「かすがいKIZUNA」の2大事業を確立するため、ギフチョウエリアの拠点校として、東高森台小学校にて、本事業の有効性を検証する。
2. 事業の運営: 本事業を推進する「かすがいKIZUNA推進室」を設立し、中部大学に拠点を置く。同推進室は、運営母体であるとともに、「情報発信センター」として、HPなどで情報を発信する。
3. コーディネーターの育成: 本事業の継続的運営を目的に、各学区に「かすがいKIZUNA」を展開する「KIZUNAコーディネーター」を育成する。2007年度は、中部大学の大学生を対象に、2名(3年生1名、4年生1名)を輩出する。

【平成 19 年度事業の内容】

2007年度は、春日井市立東高森台小学校学区を対象に、「かすがいKIZUNA」を推進する。

施策	段階	教育内容	デジタル教材:一例
発見 ラーニング KIZUNA	課題発見	保護者参画型体験学習による学区の自然環境に関する課題発見(ギフチョウの産卵数調査と経年変化、田んぼビオトープの生態)	「ギフチョウの産卵数調査」
	仮説立案	教科(理科/社会)学習を通じた知識の習得による対策の立案(自然環境の変化が生態系に及ぼす影響とその対策)	「Save the ギフチョウ」
	仮説検証	専門家と連携した対策の検証(里山づくり、里山文化の推進など)	「食物連鎖をキープ」
	評価	学習効果の評価(児童/保護者の協働テスト)	「親子共同テスト」
	発展	愛知県/日本/世界の自然環境の課題と原因(地球温暖化など)	「Stop 地球温暖化」
発信 コミュニティ KIZUNA	課題発見	社会福祉協議会等による人権・共生教育を通じた共生社会の理解(障害をもつ人との交流/障害の疑似体験)	「春日井市に住む多様な人々の暮らし」
	企画立案	多様な人々が利用しやすい自然環境の企画	—
	制作	ガイドブックの作成及び自然観察環境(ビオトープ)の構築	—
	行動	自然観察環境における自然環境調査、観察、自然保全活動(親子ウィークエンド教室:PTA主催の定期的な課外教育プログラム等とのタイアップにて実施を検討)	—
	達成	多種多様な人々との交流～「絆の樹」植樹祭など～	—

【平成 19 年度の事業実施体制】～「かすがいKIZUNA推進室」の設立～

No	かすがいKIZUNA推進室	関連団体
1	とりまとめ	(株)日立製作所、中部大学(学生サークル含)、春日井市立東高森台小学校(児童によるキッズESD含)、かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会、春日井市少年自然の家、春日井市社会福祉協議会、心身障害者コロニー、NPOで・ら・しえん、愛知県環境調査センター、名古屋ユネスコ協会、東高森台小学校PTA、中日新聞、東海ラジオ、賢庭造園道場、春日井市自然環境保全活動推進員、やろみゃあエコみやあ美しい公園都市春日井、日本鱗翅学会、中部教育学会 【平成 20 年度参加校】 春日井市立石尾台小学校(予定) 【オブザーバ】 春日井市教育委員会、同環境政策課、同市民経済部、同広報公聴課、春日井市小学校校長会、小学校理科部会、中学校理科部会
2	KIZUNA	
3	ラーニング	
4		
5	KIZUNA	
6	コミュニティ	
7	広報	
8	管理	
9		

【2007年度実施スケジュール】

No	施策	活動	4～7月	8～11月	12～3月
1	KIZUNA	学習内容の企画/授業設計/実践	←		→
2	ラーニング	eラーニング教材開発/配信	←		→
3	KIZUNA	共生プログラムの企画	←	→	
4	コミュニティ	ガイドブック/自然観察環境作成	←	→	
5		「絆の樹」植樹祭開催		←	→
6	他地域との交流	里山研究大学と地域間研究交換		←	→
7	普及・啓蒙	プレスリリース	←	→	
8		校長説明会/教員研修会	←	→	
9		市民/保護者シンポジウム		←	→
10	かすがい	設立	←	→	
11	KIZUNA 推進室	全体会議	←		→
12		教育/社会的効果に関する評価			←

【持続可能な開発のための教育としての特徴】

本事業では、学区にある自然環境/人的資源を整備し、継続して活用するため「かすがいKIZUNA」を確立する。「かすがいKIZUNA」は、学区の地理的条件や住民特性など、地域の実態にあわせた教育的施策「KIZUNAラーニング」及び「KIZUNAコミュニティ」にて構成される。児童は、これらの施策を通し、人・自然を尊ぶ心を育成する。さらに、児童が学習した内容や課題を地域住民(幼児/児童/保護者/高齢者/障害者など)と共有することによって、住民間の絆が形成される。

【平成 20 年度以降の活動の継続に向けた工夫】

本事業では、2016年度までに、春日井市全38学区への展開を目指し、下記の工夫を施す。

(1) 対象範囲拡大の工夫

① 拠点となる学校の参画

- ・ 拠点となる小学校の実施を促進するために、「ティーチャー・プレ参加制度」を確立し、次年度に展開する小学校区の教員が、前年度にあたる1年間、一部の活動を試行する仕組みを整える。
- ・ 春日井市教育委員会や校長会と連携し、教員対象の研修会を実施する。
- ・ 小学校で培った「人と自然を尊ぶ心」を継続し育てるため、中学校理科部会と連携し、発達段階にあわせた実施内容などを検討する。
- ・ 教育ビジョンを共有するため、定期的に、保護者向けシンポジウムを開催する。

② 多種多様な主体の参画

- ・ 市の広報誌や市民向けシンポジウムにて、市民に発信する。
- ・ 愛知県に拠点を置くメディア(中日新聞、東海ラジオなど)と連携し、県内へ発信する。
- ・ ホームページを開設し、事業内容や効果を広く発信する。
- ・ 類似地域として、里山研究大学(近畿大学、金沢大学、龍谷大学など)との研究交流を行う。
- ・ 専門家(共生教育/児童教育/里山環境教育)を招き、勉強会を実施する。

(2) 人材育成の工夫～コーディネーターの育成～

中部大学と連携し、大学生を対象に「KIZUNAコーディネーター」を育成する。2010年度には大学の科目と連携し、育成カリキュラムを確立する。

(3) 運営資金確保の工夫

- ・ 当面は、春日井市に拠点を持つ協賛企業との連携(王子製紙など)にて運営資金を確保する。
- ・ 将来的には春日井市との連携、及び自然散策等のイベント参加者からの参加料や「絆の樹」への命名権による広告収入など、多面的な資金確保を検討する。

(4) 原価低減の工夫

- ・ 本事業で作成するデジタル教材は、市内全校での利用を想定し、汎用的な教授内容とする。
- ・ KIZUNA推進室にて機材を一元管理し、貸し出しを行うことで、機材の有効活用を図る。

(5) 有効性の検証～効果の測定～

下記の効果を総合し、本事業の有効性を評価し、他地域に訴求していく。

- ① 児童の学習意欲の向上
- ② 学生のコーディネート力の向上
- ③ 教材/カリキュラムの妥当性
- ④ 市民の関心の向上(主体的な活動の広がり)
- ⑤ 本事業の実施地区の拡大

Ⅲ

実態調査

Ⅲ. 実態調査

本事業では、春日井市の自然環境、及び教育に関する課題／ニーズの抽出を行うため、実態調査を行った。調査結果を下表に示す。また、詳細は【資料〇】に示す。

①調査対象:春日井市内の小学校5校(丘陵地区2校、市街地3校)の児童／保護者

②調査目的:(a)春日井市の自然環境に関する関心／認識の状況を調査し、課題／ニーズを抽出する。

(b)自然に関する保全活動への参加状況と参加における課題を抽出する。

(c)学校教育／子に望む内容を抽出する。

③回答数 :796名 (回答率77.2%)

実態調査結果

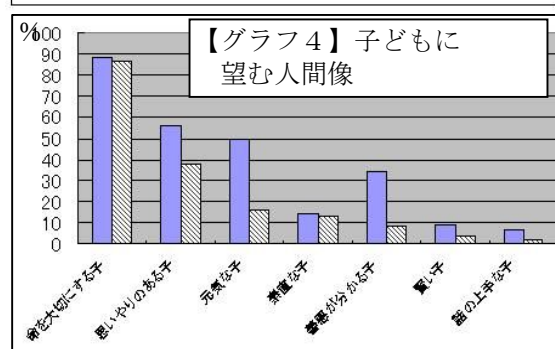
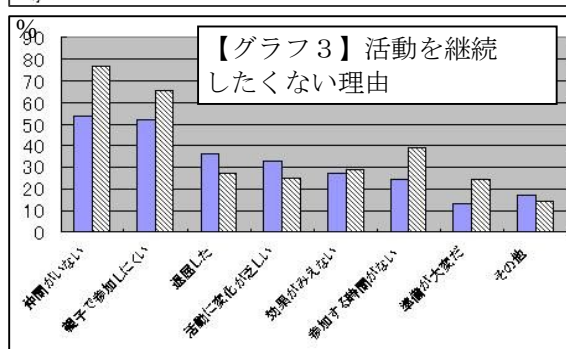
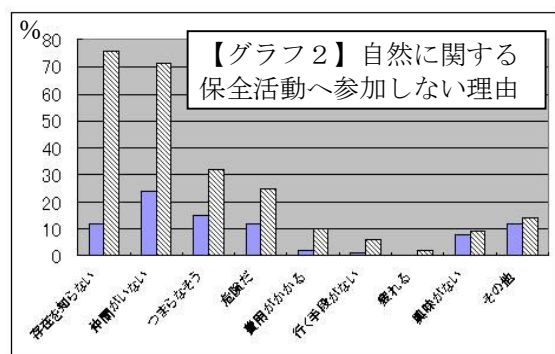
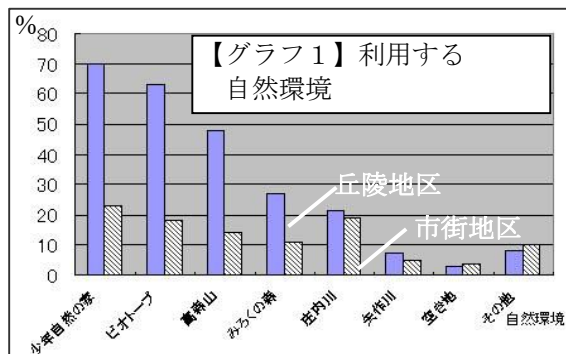
項目 (一部抜粋)		調査結果(単位:%)		備考 (丘:丘陵地、市:市街地)
		丘陵地	市街地	
Ⅰ. 自然環境の活用状況	活用している	83	22	【グラフ1】参照 少年自然の家(丘70%、市23%)、ビオトープ(丘63%、市18%)など。
	活用したい	91	76	
Ⅱ. 自然に関する保全活動への参加状況	参加している	45	18	【グラフ2】参照 参加しない理由は、「存在を知らない」(丘12%、市76%)、「仲間がいない」(丘24%、市71%)など。
	参加したい	63	57	
Ⅲ. Ⅱの活動の継続 ※Ⅱで「参加している」「参加したい」と回答した者を対象	継続したい	74	62	【グラフ3】参照 継続したくない理由は、「仲間がいない」(丘54%、市77%)、「親子で参加しにくい」(丘52%、市66%)
Ⅳ. 学校教育における環境教育の必要性	必要である	86	90	-
Ⅵ. 子どもに望む人間像として「命を大切にする気持ち」	必要である	88	87	【グラフ4】参照 他に、「思いやり」、「賢さ」、「健康」など。

調査の結果、以下の傾向が明らかとなった。

(ア) 保全活動へ参加しない市民の約9割が、その活動の存在を知らない。

(イ) 保全活動を継続させるためには、「仲間づくり」、「親子での活動」が効果的である。

(ウ) 保護者の9割が、「命を大切にする子」の育成を望んでいる。



IV

広報

Ⅳ. 広報

本委員会では平成18年度に、以下の広報事業を実施した。

No	区分	概要		内容	資料
1	プレス・リリース	東海ラジオとの番組制作会議	2007年1月12日(金) 場所:東海ラジオ東京支社 参加者:東海ラジオ・プロデューサーなど4名	◆ラジオ番組での広報に関し打合せを実施。	P
2		中日新聞へのプレス発表	2007年2月18日(日)	◆2月18日(日)朝刊にて発表	Q
3	シンポジウム	スタートアップESD	2006年12月14日(木) 場所:春日井市立東高森台小学校 講師:東京学芸大学・小澤教授、ESD事務局・吉沢氏 参加者:小学校教員、環境保全団体、大学教員、企業、大学生など56名	◆「自然環境の視察」(少年自然の家、ビオトープ) ◆講演「ESD基本概念」(東京学芸大学・小澤教授) ◆「中間事業モデルの発表」 ◆「第一回実態調査報告～丘陵地区の調査から明らかになったこと～」	G
4		保護者 ESD	2007年2月15日(木)、16日(金) 場所:春日井市立東高森台小学校 講師:EPO・新海氏 参加者:春日井市東高森台小学校保護者15名	◆講演「ESD基本概念」(EPO・新海氏) ◆保護者座談会「保護者が考えるESDと子の未来」	R
5	説明会	校長説明会	2007年2月2日(金) 参加者:春日井市立小学校校長38名	◆ESD の基本概念に関する説明 ◆小学校教育での展開に関する協議	S
6		18年度 ESD 報告会	2007年3月13日(火) 場所:中部大学 講師:ESD 事務局・吉沢氏 参加者:小学校教員、環境保全団体、大学教員、企業、大学生などFF 名	◆18年度の協議事項の説明 ◆「ひがたかKIZUNA」の報告 ◆他地域の事例紹介／講評(ESD 事務局・吉沢氏) ◆協議	N

V

関連資料

第1回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 11 月 9 日（木）19：00～22：00
場 所	春日井市立東高森台小学校会議室
出 席 者	（自然環境保全活動推進員）山本勝利；（中部大学）上野薫，可児由香，伊藤亜美，北村紗也桂，山内達郎，久保壮史；（日立製作所）杉山康彦；（東高森台小）佐方利明，大島加代子，阿部雅仁；（東高森台小 PTA）梅田直宏，森田智香；（造園業）板倉賢一；（公園都市）奥村昇次，奥村優子，井上栄；（ギフチョウのすむ里山づくりの会）太田省三，樋口祐子，一井好央，北原健次，井藤恵美子，堀妙子，高橋匡司 以上 24 名
議 題	・環境省採択事業内容の説明と ESD の趣旨の理解・共有 ・「ひがたかネイチャー事業」の狙い・課題抽出とニーズ調査などについて ・今後の進め方（体制とスケジュール）について
配付資料	・環境省促進事業キックオフ・ミーティング（11 月 1 ～ 2 日）配付資料 ・ひがたかネイチャー実行委員会名簿 ・ひがたかネイチャー実行委員会の平成 18 年度活動内容 ・ひがたかネイチャー事業採択申請書概要 ・予算と精算について
議事録要点	・当事業の目論見・費用・スケジュールなどを全員で確認し共有した。 －かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会が中心に，従前の学習環境を拡大し，春日井市の東部丘陵に生息する稀少種の生き物の自然保護・育成活動に多くの地域住民の参画を図る。春日井市の小学校・保護者・市民・市民団体・事業者・行政が連携し，幼児・高齢者を含めた地域参加型の自然保護・育成活動を早期に具体化することを確認し合った。 －社会性 - 地域市民への啓蒙と連携強化；経済性・環境性などの多面的な評価実施 －拡大性 - 他の教育分野への展開；他学区への展開 －継続性 - 実施体制の補強見直し・専門家との連携など ・2 年間で実現する基本 3 事業内容の確認。 －地域住民を対象とする“ひがたかネイチャー博士認定”学習コースの確立 －自然体験コース“ひがたかネイチャーパーク”の設立 －自然と市民のふれあいデー“ひがたかネイチャータイム”の開催 ・ESD 観点から見た本事業の当初計画の修正や追加について討議をすすめた。 －ギフチョウを中心とした自然環境再生事業の中期計画の立案。 －行政との連携によるシンポジウムの実施やメディアと連携した情報発信 －小学校を対象とした段階的カリキュラムの基礎教科との連携 －教員委員会との連携基盤の確立 －中部大学との連携基盤拡大などによる異業種・専門家と連携した体制の強

	化と質的向上 －本事業運営への児童・保護者・高齢者などの参画とそのニーズ分析 ・当事業の全体推進スケジュールと当面の実践方法の確認。 ○ワーキング・グループによる事業内容の推進強化 ○教育カリキュラムの立案：学習計画ワーキング・グループ ○自然体験コースの企画：自然環境ワーキング・グループ ○自然と市民のふれあい場面の創出：ふれあいワーキング・グループ ○将来の継承者の育成：コーディネーター育成ワーキング・グループ ・各事業の課題抽出とニーズ調査の実施方法・スケジュール・内容などについて総括的な意見交換の実施。 ・自然再生に関する地域住民へのアンケート調査に関する対象者・方法・スケジュールなどの具体化を討議。 －東高森台小4年生と父兄を対象に自然への関心，環境への理解，環境保全活動の経験の有無，活動への参加意欲などに関するアンケートを実施することを決定。 ・東高森台小のビオトープ見学と新観察路(自然体験コースの企画)の検討を早急に具現化することが確認された。 ・中部大学上野研究室との連携強化を確認。 (高橋匡司作成)
--	--

第2回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 11 月 24 日（金） 16：00～21：00
場 所	春日井市立東高森台小学校会議室
出 席 者	（中部大学）上野薫，関山洋；（日立製作所）杉山康彦；（東高森台小）大島加代子；（東高森台小 PTA）森田智香；（造園業）板倉賢一；（公園都市）奥村昇次，井上栄；（ギフチョウの里山）浅見良平，太田省三，北原健次，高橋匡司以上 12 名
議 題	・“東高森台小ビオトープ” の見学と新散策路の設計データの採録 ・“ひがたかネイチャー事業” 推進のためのアンケート調査の実施について ・今後の進め方について
配付資料	・スタート時の課題と一年目の到達目標 ・ひがたかネイチャー事業に関するアンケート（案）提案書 ・東高森台小の新自然体験コース実行プラン提案書
議事録要点	・東高森台小のビオトープ見学と新体験コース設計のための基礎データ採録（16:00～17:30）。 －メダカやマツモムシの生息確認。 －板倉リーダーのもとに水準や面積割りの設計基礎データの採録。 －近隣住民が，校内に出入りできる環境づくりについて意見交換。 ・本事業の推進を目的とした当面の検討項目の抽出。 －平成 20 年以降に繋げるために，社会性，拡大性，持続性の面から 2 年間で達成したい内容の軌道修正や追加の検討（第 1 回検討内容の継続）。 －国際化・福祉・技術教育への展開の具体化 －12 月中旬に開催する ESD に関する講演会の具体化。 －1 月 20 日に開催される春日井子供環境シンポジウムへの参画と講演依頼 ・梅田リーダーの“ひがたかネイチャー”に関するアンケート案の検討。 －東高森台小 4 年生ならびにその父兄を対象に実施 －環境への関心度，少年自然の家・植物園など環境教育拠点のイベントへの参加実体，ギフチョウ・リスなどの稀少生物保全活動への参加意欲などに関する内容で，早々に実施することを決定。 （高橋匡司作成）

第3回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 11 月 30 日（木）19：00～21：30
場 所	春日井市立東高森台小学校会議室
出 席 者	（中部大学）上野薫，可児由香，関山洋；（日立製作所）杉山康彦；（造園業）板倉賢一；（公園都市）奥村昇次；（東高森台小）大島加代子；（東高森台小PTA）梅田直宏，森田智香；（ギフチョウの里山）浅見良平，太田省三，北原健次，高橋匡司 以上 13 名
議 題	・東高森台小PTA サイドからの課題 ・自然体験コースの提案 －東高森台小－高森山－自然の家トライアングルコース ・東高森台小の環境学習に関する実施内容紹介 ・東高森台小校内への市民の立ち入りに関わる課題 ・今後の進め方について
配付資料	・PTA から見た当プロジェクト実施にともなう課題・問題点（梅田様） ・ギフチョウの保護活動・プールのヤゴ救出・ビオトープづくりと活動内容・校区内の生物調査報告などの紹介集（大島先生）
議事録要点	・東高森台小学校周辺エリアの居住者の特色などの報告とそれに対する質疑応答を通して、現状分析がされた。（梅田様） －高齢者が多い，保護者が仕事を持っているため学校行事への参加が少ない，新興住宅街の一角のため転入者が多いなど課題を抱えた地域である。 －全体として，親子の交流に欠ける嫌いもある。 －地域住民の意識特性や生活様式が東西地域で格差が大きいことなどの話にも及び，課題抽出が進んだ。 ・これまでの討議を踏まえた自然体験コースの見直しも進み，多様な自然環境に恵まれる東部丘陵に生息するギフチョウを含めたリスの保全や里山文化や歴史についても学習するのが望ましく，それらを体験できる新学習コースの提案がされた。（浅見様） ・高度な学習プログラムにしていくなためにも，本事業の入り口となる自然環境については掘り下げた継続調査が必要であり，更には高度な市場調査方法の検討も必要であることが議論の中でクリアになってきた。 ・東高森台小学校の4年生と5年生に実施されている自然環境教育の内容が，映像により紹介された。ギフチョウの保全が切っ掛けになりプールのヤゴ救出や夏休みの蝶類調査などに段階的に拡大されていった内容が披露され，課題やカリキュラム改善に向けてのアドバイスなどが活発にされた。 ・ビオトープでの学習を通して，“命の大切さ”に結びつくよう工夫しているが，一層高度なプログラムにしていけるよう検討していきたい。 ・市民の支援展開に当たっては，校内の安全・安心の面から解決すべき課題も残されていることが明確になってきた。 （高橋匡司作成）

第4回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 12 月 7 日 (木) 19 : 00～21 : 00
場 所	春日井市立東高森台小学校会議室
出 席 者	(中部大学) 上野薫 ; (日立製作所) 杉山康彦 ; (東高森台小) 大島加代子 ; (東高森台小 PTA) 森田智香 ; (公園都市) 奥村昇次 ; (ギフチョウのすむ里山づくりの会) 高橋匡司 以上 6 名
議 題	・ 東高森台小の環境系総合的な学習の実施内容の紹介と課題 (続き) ・ 小学校高学年の環境教育に関連したカリキュラムの抽出
配付資料	・ 平成 19 年度東高森台小の総合的な学習でおこなう環境学習の計画 (案) (大島様)
議事録要点	・ 東高森台小での環境学習概要が共有された。 ・ 高学年対象のカリキュラムが、自然環境に恵まれた立地条件を活かした内容で構成されていることが強みになっている。 － 4 年生 : ビオトープで観察される生き物調査 ○身近な生き物への関心を高める入口として位置づけている ○命の大切さに気付くように内容が組まれている ○父兄会でのポスターセッションや低学年への内容紹介の場を通して発表することにより、基礎教科の国語などの能力向上へ結びついている － 5 年生 : 絶滅危惧種ギフチョウの保全活動にステップアップ ○地域での自然環境保全活動への参加 : ギフチョウの自然観察・産卵数調査・餌植物の下刈りによる育成など環境保全活動の参加型体験 ○地域環境問題への取組の切っ掛けづくりや理科や社会科との相乗効果の期待 － 6 年生 : ビオトープ管理やインタープリターの実演体験による仕上げ ○里山・ビオトープ活動体験の拡がりを通して、人に優しくすることの大切さを体感 ・ 上記カリキュラムの内容の理解と質疑を通して、ESD 概念が、従前のカリキュラムの改善や高度なプログラムへの完成に向けての良き指標となることを確認できた。 (高橋匡司作成)

第5回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 12 月 8 日（金）19：00～21：00
場 所	春日井市立東高森台小学校会議室
出 席 者	（中部大学）上野薫，可児由香，関山洋；（日立製作所）杉山康彦；（東高森台小）大島加代子；（公園都市）奥村昇次；（ギフチョウのすむの里山）浅見良平，高橋匡司　以上8名
議 題	・本事業の事業内容に関する企画検討（中部大学上野研究室の関わり方について）
配付資料	・「ビオトープ」拡張解釈によるひがたか事業に利用可能アイディアメモ（上野先生） ・今年度，来年度の中部大学の関わりについて（上野先生）
議事録要点	・中部大学上野研究室の当事業内容への関わり方について，上野先生の専門分野の紹介をして戴いた。 ・学内ビオトープの活用と小学生向きに改良されつつある“森の健康診断”手法の活用が，当事業の幅の広がりにも寄与することが確認された。 ・東高森台小校内の学校ビオトープの活用の有用性。 －現代のビオトープは，副産物として理科教材，子供の遊び場，親子や地域住民のふれあいの場を提供している －校内に存在するので，安全で年間・長期的観察が可能である。 －初めての実体験として四季を通じて生物と関わり観察することができる環境として最適である。 －総合的な学習としては，4年生での導入が望ましい。 －一般市民への環境教育の教材，教育の場としてのも有用である。 ・森の健康診断手法の小学生やその父兄への導入は，効果的である。 －調査内容は，①樹木の密度管理，②林床の植物多様性調査，③緑のダム効果実験から成り，現場での十分なまとめ・発表を通して，種の多様性や生物生息空間がどれだけ多様になるのか，土や水のしみこみ方がどう変わるのかなどが自分で測定し，比較し，考察することができる。 －現行の内容は，若干の手直しで小学生でも実施が可能となる。 ・総合学習として5年生には森の診断を，6年生にはヒトの多様性（年齢差，性差，人種，障害を持つヒトの存在，友達一人一人のものの考え方や個性，つまり心の問題）についての学習を提案したい。 （高橋匡司作成）

第6回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 12 月 11 日（月） 19：00～21：30
場 所	春日井市立東高森台小学校会議室
出 席 者	（中部大学）上野薫，可児由香，関山洋；（日立製作所）杉山康彦；（東高森台小）大島加代子；（東高森台小 PTA）森田智香；（公園都市）奥村昇次；（ギフチョウのすむ里山）浅見良平，太田省三，高橋匡司 以上 10 名
議 題	・本事業の事業内容に関する企画検討（続き） ・ふれあいデーでのイベント内容提案
配付資料	・ふれあいデー”ひがたかネイチャー・ワールド”イベント開催（奥村様）
議事録要点	・今回は，本事業の活動内容を市民に広く知ってもらう目的で，楽しい参加型のイベントの開催について意見交換を図った。 －教育関連団体のネットワークづくりによる実施 －大学・小学校連携によるイベントの実施 －ESD 協議会の設立による実施 －環境政策課・教育委員会・少年自然の家・植物園・中部大学・地元市民団体の自然観察会などの連携による“自然に関わる写真大会”の開催 ・ひがたかネイチャーの活動を東高森台地区ならびにその他の地区の市民に広く知ってもらう目的で定期的・継続的なイベントの具体化を図る提案がされた。（ふれあいデーワーキング・グループ奥村リーダー提案） －参加型イベントとしての前夜祭＋本祭イベントの開催 ○前夜祭：いのちの聖火リレー，いのちのコンサート ○本祭：記録映画・ひがたかネイチャー上映，小学校の環境活動発表会，リスの生態数調査イベント，エコツアーなど －記録映画“ひがたかネイチャー”（40 分）を上映し，1 年間の活動を市民に見てもらい，活動内容を理解してもらう。 ○盛り込まれる内容：ギフチョウの観察会，ひがたかビオトープの拡張計画＋実施活動＋観察会，高森山のリスの生態数調査，少年自然の家の自然紹介，森の健康診断活動，東部丘陵の美しい自然・里山の文化・歴史など ○編集：ナレーション，音楽を入れた 40 分もの ○撮影：ギフチョウの里山の会の DVD 撮影班，中部大メディア学科への協働依頼，NHK への企画持ち込み （高橋匡司作成）

第7回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 12 月 14 日（木）18：00～20：00
場 所	春日井市立東高森台小学校音楽室
出 席 者	（春日井市役所環境政策課）小林副主幹，入谷副主幹，伊豆原主任；（春日井市自然環境保全活動推進員）仲小路浩，井出喜和，栗田孝彦，角田達雄，広川雄三，山本勝利；（中部大学）上野薫講師，応用生物部学生 20 名；（東高森台小学校）今津校長，日比野教頭，佐方校務主任，大島教諭，阿部教諭その他教諭 5 名，梅田 PTA 会長，森田 PTA 副会長；（中日新聞）岡本記者；（日立製作所）杉山康彦；（少年自然の家）浅見良平；（公園都市）奥村昇次，井上栄；（東部丘陵自然観察会）井上勝彦，内海勇夫；（ギフチョウのすむ里山）太田省三，樋口祐子，一井好央，北原健次，井藤恵美子，堀妙子，高橋匡司 以上 56 名
議 題	・ ESD 基本概念に関するご講演 東京学芸大学教授 小澤紀美子様 ・ 市場調査に関する結果報告 東高森台小学校 PTA 会長 梅田直宏様 ・ 事業構想案の報告 当会事務局長（日立製作所）杉山康彦
配付資料	・ ESD パンフレット ・ ひがたかネイチャー事前調査集計表（梅田様）
議事録要点	・ 今回は，第 2 部としての実行委員会内容を記述する。 ・ ESD 基本概念に関するご講演 東京学芸大学教授 小澤紀美子様 ープロジェクターによる ESD 基本概念のご講演。参加者は，たいそう興味深く聴かれていた。 ・ 市場調査に関する結果報告 東高森台小学校 PTA 会長 梅田直宏様 ー東高森台小 5 年生とその父兄に，環境教育推進ニーズ調査を実施。 ー環境問題や環境イベントへの関心度合いやギフチョウへの知見に関するアンケートの実施。自然豊かな地域に居住されているためか，自然観察会への参加希望や野生動物に関する知識や保全活動に参加もしくは関心があると答えた方の割合が多かった。 ー親は，命を大切にする子ども，思いやりのある子ども，元気な子どもに育てて欲しいと願っていることが判明。 ・ 事業構想案の報告 杉山様 ー命の大切さを理解し，人や自然と共存できる子供の育成 ー自然体験活動を通して自然の大切さを理解し，地域の高齢者や障害者に自然を案内し，人を思いやる気持ちを養う ー大学や少年自然の家などと連携し地域や世界の課題を理解させ，子どもに投げかけを行い環境や社会問題に目を向け行動させる ーこれらのことが実現できる活動体験と E ラーニングを組み合わせた学習コースの組み立てと仕組みづくりを産官学ならびに市民団体で推進することについてその概要を報告。 （高橋匡司作成）

第8回ひがたかネイチャー実行委員会 議事録

日 時	2006 年 12 月 22 日（金）18：00～22：00
場 所	中部大学 30 号館 6 階会議室
出 席 者	（中部大学）上野薫，関山洋；（日立製作所）杉山康彦，渡辺敦子；（公園都市）奥村昇次；（ギフチョウのすむ里山）浅見良平，太田省三，高橋匡司 以上 8 名
議 題	・現状の全体スケジュールの確認 ・今後のスケジュールと運営方針 ・今後の検討事項と分担
配付資料	・ESD「ひがたかネイチャー」検討事項（杉山様） ・ひがたかネイチャー学習コース4年生（渡辺様） ・ESD ひがたかネイチャー・里山文化・里山の自然・里山の現状（浅見様）
議事録要点	・実行委員会の会場は，今後は，可能な限り中部大学の会議室をお借りして開催することとする。 ・今回から，日立製作所（株）所属の渡辺敦子様が実行委員会メンバーとして定期的に参加されることになりました。 ・「ひがたかネイチャー」の詳細な検討項目が抽出され，担当者（浅見・板倉・上野・梅田・大島・太田様，奥村・杉山・森田・渡辺・高橋の11名）と期限の割り振りが決定。今後定期的にこの分担表の内容の進捗度合いのフォローを通して検討課題や提案について実行委員会で討議し，遅れている全体スケジュールの挽回を図ることが確認された。 ・ひがたかネイチャー学習コース4年生のカリキュラム案が渡辺様から提案され，内容の検討につき意見交換がされた。後日，5年生用と6年生用のカリキュラム案が杉山様と渡辺様から提案されることになった。 ・生態系の課題にも踏み込む必要があり，愛知県環境調査センターとの連携を模索するために打合せの機会を持つことが提案された。 ・ギフチョウの生息危機の原因調査などについては，「かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会」と少年自然の家の浅見様と連携して担当することになった。併せてギフチョウの生息環境や個体数の増減理由についてもカリキュラムに織り込めるよう検討することとした。 （高橋匡司作成）

第9回ESDひがたかネイチャー議事録

2007.1.31

中部大学環境生物科学科3年 関山洋

開催日：2007. 1. 18 18:00~22:00

場所：中部大学30号館6階会議室

参加者（以下敬称略）：高橋、杉山、板倉、太田、浅見、奥村、梅田、大島、森田、渡辺、寺澤（初参加，中部大経営情報学部）、可児、上野、関山 計14名

- 議題：1. 「ひがたかネイチャー」検討事項の確認について
2. NPO法人「かすがいネイチャー」の設立案について
3. その他

1. 「ひがたかネイチャー」検討事項の確認について

・本議題は別紙、ESD「ひがたかネイチャー」検討事項（2006. 12. 22配布）に沿って進行された。

・ビジョン、モデリングについて : 杉山

ビジョンについてはまだ作成中、モデリングとしては別紙「事例調査－教育的拡大からみた事例1、2」を使用し千歳大学および近畿大学の事例について説明がなされた。またこの二つの事例、特に近畿大学の例はかなり進んでおり、環境もひがたかと似ているため調査の必要ありとの見解に至った。

・事例調査について : 高橋

別紙「ギフチョウについて」と「ギフチョウの保全活動概要」を使い事例調査についての意見が交わされた。生物についての基礎データが少ない為、「個体調査を地道にやってみては」との意見が出た。また、別紙「現状の課題と今後の進め方」が配布され、その内容を確認した。

・愛知県、春日井市との連携、および実践校の拡大について : 高橋

春日井市との連携は少しずつではあるが動きつつあるとの話がなされた。だがシンポジウム、研修会などには積極的ではなく未だ腰が重たいようである。更なる連携の強まりが望まれた。愛知県との連携はこれからの予定、実践校の拡大については少しずつ拡大しているとの説明があった。

・分科会の新設 : 大島

東高森台についてはすぐに可能であるが、他の学校に関しては難しい状況であると説明がなされた。

・環境、国際、技術教育について : 杉山、渡辺、上野、奥村

環境教育に関しては愛知県環境調査センターに一月の末に話を持ちかけ、問題なく話しが進められる予定であるとの話が杉山よりなされた。国際教育に関してはカリキュラム作成中で一月末に完成予定であるとの説明が渡辺より出た。技術教育については中部大学では少し出遅れたとの認識があると上野、トヨタホームについては別紙が配布され、内容の説明が奥村からなされると共に、この案は現状では前向きに検討されており可能であると説明がなされた。

・ 福祉教育について ：高橋

未だ手付かずのこの項目を項目５８と同時進行する案が出され即決。項目５８と共に渡辺に引き継がれることが決まった。

・ メディア戦略について ：高橋、杉山

別紙「ひがたかネイチャー事業の当面のメディア戦略について」に沿って高橋より内容の説明と意見が交わされた。プレスリリースは時期の関係で４月以降への持ち越しが打診されたが、最終的に小さな記事でも良いので、２月頃に行われることが決定した。また東海ラジオへのメディア戦略については別紙「東海ラジオと連携した拡大施策」に沿って杉山より報告が行われ、ひがたかがＥＳＤに通ったことが前提にはなるが週一で５分くらい(有料)の時間をとってみては、との提案がされたとの説明があった。

・ 市場調査について ：梅田

以前行ったアンケートを他地域でも実施するにあたっての問題点、変更点について話し合った。他校での実施は結果の比較を行うためにも最低１校か２校、配布については大島先生の知り合い伝いに小さくピックアップしていくのが効果的であるとの見解で一致した。アンケート内容は他校には通じない内容を比較が可能な範囲で省いた。また障害者、高齢者向けアンケートについては環境について考える余裕がないとの見解から保留された。

２．ＮＰＯ法人「かすがいネイチャー」の設立案について

・ 日立製作所が表立つよりは何らかのＮＰＯ法人が指揮をとっていったほうが行政の支持が得やすいなどといったことを背景に新たなＮＰＯ法人を立ち上げてはという議論がなされた。新たなＮＰＯ法人の設立は以前からも期待されていたが、時期的な問題、役員の確保の問題など多くのハードルがあり今の段階では立ち上げは保留という形となった。

３．その他

・ 浅見より、学習コース案のレジメを配布。時間切れのため、説明は次の機会に持ち越し。

・ 上野より、１月１５日に行われた中部大学内の中部地域拠点ＥＳＤの会議にて本事業の説明を行った際のレジメを配布。説明はなし。本事業の内容を、これをたたき台として分かりやすいものに仕上げる必要がある。

以上

第 10 回 ESD ひがたかネイチャー実行委員会議事録

2007 年 2 月 7 日
中部大学応用生物学部 3 年 関山洋

開催日：2007 年 1 月 29 日（月） 18:00~22:00

場 所：中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者（以下敬称略）：高橋、杉山、太田、浅見、奥村、梅田、大島、渡辺、寺澤、
可児、上野、関山 計 12 名

議 題：1. 2 月 15 日、16 日の保護者向けシンポジウムについて
2. 「ひがたかネイチャー」検討事項の確認について
3. その他

1. 2 月 15 日、16 日の保護者向けシンポジウムについて

・ 2 月 15 日、16 日に行われる保護者向けシンポジウムの開催日数とタイトルについて意見が交わされた。最終的に開催日数は両日、タイトルについては保護者の興味を引くためにもキーワードに「子供」を用い、最終決定は大島が校長らと共に決定することとした。

2. 「ひがたかネイチャー」検討事項の確認について

・ 前回同様に本議題は別紙、ESD「ひがたかネイチャー」検討事項（2006 年 12 月 22 日配布）に沿って進行された。

・ 追加アンケートの実施について : 梅田

前回話し合った追加アンケートの実施校について報告がなされた。実施校は上条小学校、松山小学校、篠木小学校、石尾台小学校の 4 つ。2 月 15 日の座談会に間に合わせるためにも急ぎで行うことで合意がなされた。また東高森台についても子供のアンケートが不十分であるとの見解により、子供用のアンケートをもう一度実施することが決定した。

・ ビジョンについて : 杉山

ビジョンについて別紙が 1 枚配布され、それに沿って議論がなされた。生態系保全イベント「ひがたかネイチャーWorld」を「ひがたか KIZUNA」に変えることの意義について話し合いがなされ、この資料を基本としアクションプランを作成することに大筋で合意した。

・ 福祉教育カリキュラム設計に関する視察報告 : 渡辺

別紙「福祉教育カリキュラム設計に関する視察報告」を用いてコロニー内福祉施設視察に関する報告があった。触れ合っていくには大きな課題がまだまだあるが、なんとか積極的に機会を持ちたいとの報告がなされた。視察したコロニーのパンフレット概要を別紙資料で上野が配布。

・ **メディア（新聞）について** ：高橋

新聞の取材について、全県版では時間がかかるが近郊版なら取材を含めて10日あれば発行できるとの報告がなされた。環境省関係者の方のスケジュールを合わせ、取材日の調整に入ることが決められた。

3. その他

- ・ 2月15日のESD全国会議の参加者がまだ増員できるとの連絡があった。
- ・ 近畿大学の視察は2月20日以降になるとの連絡がなされた。
- ・ 交通費、印刷費等の第2次精算を2月10日までに高橋までとの連絡がなされた。
- ・ 今後の本事業推進について、今以上に各自が積極的に活動し、各委員の共感度を高める必要があるとの共通認識を得た。そのためにも、情報交換はなるべくメーリングリスト上で行うようにする。

以上

第11回 ESD「かすがいKIZUNA」実行委員会議事録

2007年2月12日
中部大学応用生物学部3年 関山洋

開催日：2007年2月8日（木） 18:00~25:30

場 所：中部大学 30号館6階会議室

参 加 者（以下敬称略）：高橋、杉山、太田、浅見、奥村、大島、渡辺、可児、上野、
関山 計10名

- 議題**
1. 検討事項の確認について
 2. 2月15の全国会議発表資料についての話し合い
 3. その他

1. 検討事項の確認について

・中日新聞の取材について : 高橋

2月9日に中日新聞の記者が取材に来ることが報告された。東高森台小学校にてビオトープの視察なども行われる。掲載は、2月18日の朝刊の近郊版が予定されている。

・県との連携について : 杉山

愛知県環境調査センターは協力的であるが、こちらの基礎がしっかりと固まっていないうちは少し様子を見たほうが良いとの見解に至った。

・ユネスコ訪問の報告について : 渡辺

目的がはっきりしており、広がりがあるという高評価をえられ、将来的には全国との横連携も可能。本プロジェクトに賛同してくれるとの話がなされた。

・学習コースについて : 浅見

2007.1.18に配布された資料を元に浅見より説明がなされた。課題がいくつかあるが議論する機会は今後3月中旬頃に持つこととし、今回は議論は保留とされた。

2. 2月15の全国会議発表資料についての話し合い

・2月15日に発表する資料についてパワーポイントで大まかに説明がなされ、その後内容について詳細な検討を行った。また、現在の「ひがたかネイチャー」という事業名の変更について提案がなされた。本事業は、自然環境の保全に固執するものではなく、地域の人と人、人とその他のいのちの繋がりを大切に、個々があるべき地域社会の目標に向かって活動できる仕組みを築くことを目的としている。この事業目的を的確にかつ端的に表現する事業名称について議論した結果、〔絆再生プロジェクト「かすがい KIZUNA」～人と自然を尊ぶ心の育成～〕とすることとなった。

3. その他

- ・議事録について今回の会議で第11回とし、名称も「かすがい KIZUNA」実行委員会で統一することとした。
- ・奥村よりイベントの提案として「親と子の KIZUNA コンサート」「環境人形劇」の二つが口頭で説明された。
- ・予算について別紙が二枚配布され、その対策について話し合われた。
- ・近畿大学視察について2月28日に5名で行うことが報告された。

以上。

第12回 ESD「かすがいKIZUNA」実行委員会議事録

2007年2月27日
中部大学応用生物学部3年 関山洋

開催日：2007年2月20日（火） 18:00~23:30

場所：中部大学 30号館6階会議室

参加者（以下敬称略）：高橋、杉山、太田、浅見、梅田、大島、森田、渡辺、可児、
上野、関山 計11名

議題

1. 検討事項の確認
2. 申請内容の詰め、今後の体制について
3. その他

1. 検討事項の確認

・中日新聞への記載について : (高橋)

2月18日の中日新聞への記載についての報告があり、意見が交わされた。内容が環境教育に偏っている、との意見が出たが多くの人をESDに振り向かせるには一定の効果があったといえるとの見解にいたった。

・第二次アンケート結果について : (梅田)

第二次アンケートについての途中経過が報告され、予想を上回る数が回収できたと報告があった。また同時にホームページの作成について資料が二枚配布され、その構成について説明がなされた。また、ホームページに記載するメンバー紹介用のプロフィールを考えておくようにとの連絡があった。

2. 申請内容の詰めと今後の体制について

・申請内容の詰め

3月2日の申請内容の詰めとして交流会で指摘された、ギフチョウが薄れてしまった、コロニーとの繋がりが分からない、小学校だけでなく中高生にもやらせては、などの3つの問題を新たに解決し盛り込むことが今後必要とされた

・「推進室」の体制案について : (杉山)

今後、の体制として「推進室」を作ってはどうかとの提案があった。内容としては室長を上野、副室長を杉山とし、顧問として高橋、太田、可児を置く。そして2大事業のKIZUNAラーニング、KIZUNAコミュニティについてはそれぞれ上野、梅田に一任するが、それぞれの立場の者は密接に連携しあい、事業を推進していく。という説明がなされ、大筋で合意された。

・今後の予算の見積もりについて : (渡辺)

資料が一枚配布され、19年度予算の見積もりについて詳しく話し合われた。

3. その他

・交流会の報告 : (高橋)

交流会の報告がなされ、全体として評価は非常に良かったが、ギフトチョウが薄れてしまった、コロニーとの繋がりが分からない、小学校だけでなく中高生にもやらせては、などの指摘があったと報告があった。

・勉強会&報告会について

これまでの活動内容について普段はあまり顔を出せない実行委員会の方々にも知ってもらう場を設けたほうが良いとの提案があり決定された。 場所：市民センター会議室（不可能ならば中部大学） 日時：3月13日 18:00~20:00 内容としては ①EPO 新海氏による講演。 ②「かすがいKIZUNA」の説明。 ③体制と今後の予定。とした。

- ・ 28日の近畿大学への視察についてメンバーを募り、高橋、杉山、渡辺、上野、関山がスケジュール的に見ても妥当であるとし、大筋で合意した。最終確認を後日MLで送信。

以上。

里山大学との研究交流～近畿大学～

日 時	2007年2月28日（水）10:30～12:00
場 所	近畿大学農学部
出 席 者	かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会：高橋 中部大学応用生物学科講師：上野 同大学生：関山 株式会社日立製作所：杉山、渡辺 以上5名 ※なお、近畿大学からは、同農学部の池上教授ら計4名が参加
目 的	(1) 里山を教材／フィールドとした教育活動の実践に関する情報交換 (2) 近畿大学の成功要因と課題を抽出 (3) かすがいK I Z U N Aの課題を抽出 (4) 19年度からの研究交流に関する打合せ
配付資料	(1) かすがいK I Z U N A説明資料 (2) 当該団体の活動実績（中部大学による森の健康診断など） (3) 近畿大学の取組【M-①】
議事録要点	(1) 近畿大学による里山を中心とした学生教育に関する報告 ① 学生をインタープリターとして輩出するカリキュラム（正規／課外）を報告。 ② 地域と連携した支援体制を報告。 (2) かすがいK I Z U N Aに関する報告 ① 環境教育から共生教育や国際教育への展開を含めたカリキュラム開発の経緯と必要性を説明。 ② 小学校を拠点としたネットワークの形成による継続性を説明。 ③ コーディネータ育成に向けたカリキュラム確立／支援体制を説明。 (3) 研究交流を前提とした協議 ① 19年度以降、中部大学と近畿大学、さらに里山を抱える5大学が連携し、研究交流を進めていくことで合意。 (4) 学習フィールドとしての里山の視察 ① 近畿大学のキャンパス内の里山を視察し、大学教育への活用方法を理解。



(渡辺敦子作成)

小学校との研究交流～奈良市立富雄第三小学校～

日 時	2007年2月28日（水） 13:30～15:00
場 所	奈良市立富雄第三小学校
出 席 者	かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会：高橋 中部大学応用生物学科講師：上野 同大学生：関山 株式会社日立製作所：杉山、渡辺 以上5名 ※なお、奈良市立富雄第三小学校からは、岡部校長ら計2名が参加
目 的	(1) ビオトープを中心とした環境教育の実践における課題と教育効果を抽出。 (2) 大学や地域との連携に関する成功要因と課題を抽出 (3) 保護者の参画に向けた事例から成功要因と課題を抽出。
配付資料	(1) かすがいK I Z U N A説明資料 (2) 富雄第三小学校の取組【M-②】
議事録要点	(1) 富雄第三小学校における環境教育の実践を報告 ① ビオトープでの生態観察などを実施。 ② 近畿大学の学生サークルが一部の体験型授業を実施。 ③ 一過性の授業に止まり、環境問題などへの関心や疑問が次への学習につながりにくい。 (2) 富雄第三小学校における地域や保護者との連携に関する実態を報告。 ① 近畿大学による授業の際に、地域や保護者へ通知したが、平日の開催もあり、参加が得られなかった。 ② 学校の広報紙を活用したが、より早く、より広域に通知すべきとの課題が残った。 (3) 富雄第三小学校における校内体制 ① 現在は、校長、教頭が主導し、地域や大学との連携を強めているが、異動などがあれば、継続しにくい課題がある。 ② 地域との絆を強めることで、小学校におけるカリキュラムも定着する。 ③ 現在、ビオトープの管理を小学校教員が実施しているが、地域などの協力も得ていきたい。



(渡辺敦子作成)

平成 18 年度ひがたかネイチャー報告会 議事録

日 時	日時 2007 年 3 月 13 日 (火) 18:00～20:00
場 所	中部大学応用生物学部 3022 講義室
出 席 者	(中部大学) 上野薫, 可児由香, 寺澤朝子, 渡辺晴輝, 大畑直史, 伊藤亜美, 幾代以子, 関山洋; (日立製作所) 渡辺敦子; (東高森台小) 大島加代子; (東高森台小 PTA) 梅田直宏, 森田智香; (公園都市) 奥村昇次, 井上栄; (ギフチヨウのすむ里山づくりの会) 太田省三, 樋口祐子, 井藤恵美子, 浅見良平, 高橋匡司; (その他) 広川雄三, 山本勝利, 栗田孝彦 以上 22 名
内 容	テーマ わたしたちの ESD 活動 —「かすがい KIZUNA」はどのように生まれたか?— プログラム (1) 事業報告「絆再生事業: かすがい KIZUNA」の紹介: 上野薫 (2) 討論会「春日井で育てたい子供像»: 大島加代子, 梅田直宏 (3) 講評「かすがい KIZUNA に期待すること»: ESD-J 吉澤 卓 氏 ・ ESD の観点から見た先進事例 ・「かすがい KIZUNA が発展するために必要な要素」
配付資料	・平成 19 年度国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業の実施に向けた取り組み
要 点	・平成 18 年度のかすがいネイチャー実行委員会における活動の報告として, 本事業の背景, 目的, 現在まで具体化した事業プランを示した. 対象者は, 初回の実行委員会以降あまり参加のできなかった関係者とし, 本報告により現状の把握を促し, 次年度以降の協力よびかけを目的とした. また, 「かすがいネイチャー」から「かすがい KIZUNA」へと進化してきた過程についても報告し, ESD の本来の目的と私たちにできる ESD 活動の共有化を図った. ・討論会では, これまで 2 回行ったアンケート調査の結果を報告し, 親が望む子供の姿は「思いやりのある子」, 「元気な子」, 「命を大切にできる子」であること, 親や子供の関心のある項目はメディアが報道しているものであることなどが示された. 小学校教育では「心を育てること」が必要であり, 親をも巻き込んだ活動が必要な状況であることを共有化した. ・ ESD-J の吉澤氏より, ESD は自分の暮らしを見つめることがはじめの一步であること, かすがい KIZUNA の事業では, ひとつの小学校区から全学区へと展開していくことのできる持続可能な都市のモデルとしての意義が高いこと, 育成するコーディネーターも多様であることが大切であるとのコメントを受けた. ・これまでに何度も ESD について議論してきた実行委員会メンバーと 1 回程度しか参加していないメンバーとでは, 本事業に対する理解度の差が大きいのは仕方が無いが, 今後協力体制を拡大する過程で差を埋め, 新しい視点をも取り入れることができるようになるという可能性を共感できた.

実態調査報告書

日 時	2006年12月1日～2007年2月19日
回 答 者	春日井市小学校5校の児童・保護者 796名 (配布数1031名、回答率77.2%) ① 東高森台小学校 (児童46名、保護者103名) ② 石尾台小学校 (児童32名、保護者29名) ③ 篠木小学校 (児童120名、保護者83名) ④ 松山小学校 (児童112名、保護者69名) ⑤ 上条小学校 (児童91名、保護者69名)
調査方法	別紙のアンケート用紙を対象校へ郵送し、選択による記述式にて調査を行った 【アンケート用紙】実態調査アンケート用紙【資料 0-①～③】
目 的	当プロジェクトの対象となる春日井市住民（児童及び保護者）の環境に対する意識を知る。
地域特性	保護者の居住年数は、「10年以上」が大半を占めている。 実際に住んでいる町の環境を聞いたところ、丘陵地区の最も多い回答項目は「自然ゆたか」なのに対し、市外地区は「便利な町」と保護者、児童共に答えた。 また、春日井市で至急取り組むべき事という問に対して、保護者、児童共に「ごみ問題」についての回答が多い事に気づいた。
調査結果	調査結果を【資料 0-④、⑤】に示す。所感を以下に示す。 ◆環境問題 保護者の反応は「地球温暖化」「環境破壊」「ごみ問題」、児童は「環境破壊」「地球温暖化」「動物の絶滅」の順であったことから、各メディアで報道されがちな項目が目立つ。 実際に、これらの項目に対して個々での取り組みがどの程度されているかが、さらなる調査に求められる。 ◆日常生活での取り組み 保護者に対して標記の問を投げかけたところ、「ゴミの減少」「省エネ」「節水」といった全体的に定着率の高い項目については「すでに取り組んでいる」ようだが、「生き物の環境整備」や「ノンレジ袋運動」などについて、今は十分に定着していない。 これらの事から今後、こうした項目の定着率を上げる事で住民の環境問題に対する意識を向上させるとともに、当プロジェクトの目標達成につながると考える。 (作成：梅田直宏)

平成 19 年 2 月 2 日

X Y Z 小学校 P T A 会 員 様

ひがたかネイチャー実行委員会
会長 高橋匡司

「ひがたかネイチャー」に伴うアンケート調査について

寒さもいっそう身にしみる昨今ですが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、このたび環境省平成 18 年度「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」促進事業の 10 地区採択の一つとして、「ギフチョウを中心とした自然環境再生事業” ひがたかネイチャー” の確立」が採択されました。

その活動を進める上で、春日井市に住まわれる方々を対象に自然環境についてのアンケートを実施することになりました。

簡単なアンケートですので、できるだけ多くの方に回答を頂ければ幸いです。

今後は皆様のご意見をもとに、よりよいプロジェクトとなるよう努めてゆきたいと思っております。

ご多忙のこととは存じますが、趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

記

提 出 書 類 別紙アンケート用紙（保護者用と児童用 各 1 部）

回答対象者 児童（5 年生）とその保護者 各 1 名ずつ

回収について 担任の先生へ平成 19 年 2 月 8 日（木）までにご提出ください

以上

ひがたかネイチャーアンケート用紙（児童用）

質問のあてはまる番号に○をつけ、線を引いた場所には答えを書いてください。



（A）あなたについて

1. 今、通っている小学校はどこですか。

- ① 上条小学校 ② 松山小学校 ③ 篠木小学校 ④ 石尾台小学校

2. 性別を教えてください。

- ① 男 ② 女

（B）「かんきょう」について

1. どのような「かんきょうもんだい」に「かんしん」がありますか。

（3 つまで選んでください）

- ① 空がよごれること
- ② 川がよごれること
- ③ たくさんゴミをすてること
- ④ すててはいけない場所にゴミをすてること
- ⑤ 自然をはかいすること
- ⑥ 動物が住みにくくなることや植物が少なくなること
- ⑦ 地球が暖かくなりすぎる
- ⑧ 電気やガソリンを使いすぎて、石油がいつか無くなってしまうこと
- ⑨ 空気がよごれてきたない雨がふること
- ⑩ 悪い物が、食べ物や水や空気の中に入っていて体の害になること
- ⑪ 町にいろいろな危険があること

2. あなたの住んでいる町はどのような「かんきょう」ですか。

（1 つだけ選んでください）

- ① 空気のきれいな町
- ② 川の水がきれいな町
- ③ 自然がたくさんある町
- ④ バスや電車が多く出かけるときに便利で、みんなが元気な町
- ⑤ 食べ物や水がおいしい町
- ⑥ お寺などといった歴史のある建物があり、おちついた町
- ⑦ 電気やガソリンなどのエネルギーを大切にして、くらしやすい町
- ⑧ みんなで自然を大切にできる町
- ⑨ きれいな街や景色がある町
- ⑩ 人と人とが助け合いながら安全を守れる町
- ⑪ その他に何かあれば書いてください

（ _____ ）

3.春日井市の「かんきょう」をよくするために、すぐにやらなくてははいけないことは何だと思いますか。

(いちばん大事だと思うことを1つ選んで下さい)

- ①空気をきれいにする
- ②川や池の水をきれいにする
- ③ごみを減らしたりリサイクルをする
- ④みんなが身近で楽しめる池や公園を守ったり作ったりする
- ⑤生き物が、どこにでもたくさんいる自然を守ったり作ったりする
- ⑥電気などのエネルギーを大切にしたり風力発電などの自然エネルギーをつかう
- ⑦「かんきょう」の大切さを勉強する
- ⑧「かんきょう」の大切さを教える
- ⑨すぐにやらなくてはならない事は何もない
- ⑩その他に何かあれば書いてください(_____)

4.将来の春日井市の「かんきょう」として、どのような「かんきょう」がいいと思いますか。(2つまで選んでください)

- ①空気のきれいな町
- ②川の水がきれいな町
- ③自然がたくさんある町
- ④バスや電車がよく出かけるときに便利で、みんなが元気な町
- ⑤食べ物や水がおいしい町
- ⑥お寺などといった歴史のある建物があり、おちついた町
- ⑦電気やガソリンなどのエネルギーを大切に、くらしやすい町
- ⑧みんなで自然を大切にする町
- ⑨きれいな街や景色がある町
- ⑩人と人とが助け合いながら安全を守れる町
- ⑪その他に何かあれば書いてください(_____)

5.「かんきょう」に関係するイベントなどに参加したことがありますか。
あるとすれば、その内容を教えてください。

(一番よかったものを一つ選んで下さい)

- ①「かんきょう」についての「お話」
- ②近くの自然を見たり・知るための観察会
- ③近くの「かんきょう」について見たり勉強したりする会
- ④その他に何かあれば書いてください(_____)

A. 一年に何回くらい参加しましたか。

- ①1回 ②2回 ③3回 ④4回以上

B. 問Aで①または②と答えられた人にお聞きします。

みんなに、たくさん参加してもらうためには、どんなイベントを作ったらいいと思いますか、下を書いてください。

6.これから、「かんきょう」などのイベントで参加したいと思うのはどれですか。(1つ選んで下さい)

- ①「かんきょう」についての「お話」
- ②近くの自然を勉強したり・知るための観察会
- ③近くの「かんきょう」について見たり勉強したりすること
- ④その他に何かあれば書いてください
(_____)
- ⑤参加したくない

7.「かんきょう」を守るために、いつもの生活の中でやっていることと、これからやりたいと思っていることは何ですか、あてはまる場所に○をつけてください。

A.ごみの出ない生活（ごみをへらす・リサイクル・ものを大切にするなど）

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

B.エネルギーを大切に使う（電気をこまめに消す、省エネルギーなど）

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

C.水を大切に使う（節水や風呂の水を再利用するなど）

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

D.川や池の水を汚さない（洗剤の適量使用や生活廃水を川や池に流さないなど）

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

E.車ではなく電車やバスや自転車や歩いて出かける

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

F.買物の時に「かんきょう」にやさしい物を買う

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

G.生き物の住んでいる場所や食べ物について調べる

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

H.家族や友だちなどと「かんきょう」について話す

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

I.「かんきょう」に関係したイベントに参加する

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

J.その他(_____)

- ①すでにやっている ②これからやりたい ③やりたくない

(C) 学校や「みろく山」、「ちくすいの森」、「植物園」について

1.少年自然の家のイベントに参加したことがありますか。

- ①はい ②いいえ

2. (C-1) で「①はい」と答えた人にお聞きします。

一年にどのくらい参加しましたか。

- ① 1 回 ② 2 回 ③ 3 回 ④ 4 回以上

3. 少年自然の家の中の林を歩いたことがありますか。

① はい

② いいえ

4. 春日井市の都市緑化植物園に出かけたことがありますか。

- ① はい ② いいえ

5. (C-4) で「①はい」と答えた方にお聞きします。

A. どのような目的で出かけるか書いてください。

(_____)

B. 一年にどのくらい出かけますか。

- ① 1 回 ② 2 回 ③ 3 回 ④ 4 回以上

6. 東部丘陵（少年自然の家の周りの山々）のピオトープを知っていますか。

- ① 知っている ② 知らない

7. あなたはいつも、どのような場所で自然の観察を行いますか。

（回答は 3 つまで）

- ① 公園 ② 空き地 ③ 川 ④ 山 ⑤ 池 ⑥ 学校

⑦ その他であれば、その施設の名前を書いてください

(_____)

⑧ 「きょうみ」がない

8. あなたの学校に自然を観察をする場所がありますか。

- ① ある ② ない

あると答えた方にお聞きします。それはどこですか。（回答は 2 つまで）

- ① 校庭 ② 観察池 ③ 花壇 ④ 建物の中

⑤ その他の場所があれば書いてください

⑥ (_____)

(D) ギフチョウなどの野生の昆虫・動物について

1. ギフチョウを知っていますか。

① はい

② いいえ

2. ギフチョウを見たことがありますか。

① はい

② いいえ

3. ギフチョウを守る活動が、少年自然の家構内で東高森台小学校の生徒や市民によって行われていることを知っていますか。

① ギフチョウを守る活動や観察会に参加したことがある

② よく知っている

③ 少し知っている

④ 知らない

⑤ 「きょうみ」がない

4.ニホンリスを守る活動が、高森山で行われていることを知っていますか。

- ①ニホンリスを守る活動や観察会に参加したことがある
- ②よく知っている
- ③少し知っている
- ④知らない
- ⑤「きょうみ」がない

5.ギフチョウやニホンリスを守る活動で、どのような事なら参加したいと思いますか。（回答は2つまで）

- ①ギフチョウが住みやすい林を作るための手入れやエサが元気に育つための草かりをすること
- ②ニホンリスの数の調査とエサやり
- ③ギフチョウ、ニホンリスの観察会
- ④ギフチョウ、ニホンリスのくらし方などの研究や勉強会
- ⑤その他の活動があれば書いてください
()

6.ギフチョウやニホンリスを守る活動が、東高森台小学校、少年自然の家、高森山で行われていることを知って、参加したいと思われますか。

- ①すでに参加している、またはすぐに参加したい
- ②参加してもよい
- ③これから参加を考えたい
- ④あまり「きょうみ」がない
- ⑤まったく「きょうみ」がない

ご協力ありがとうございました。

ひがたかネイチャーアンケート用紙（保護者用）

以下の質問のあてはまる番号に○をつけ、アンダーラインには回答のご記入をお願いします。

（A）記入者について

1.あなたの児童が現在、通っている小学校はどこですか。

- ①上条小学校 ②松山小学校 ③篠木小学校 ④石尾台小学校

2.あなたの性別を教えてください。 ①男性 ②女性

3.あなたの年齢層を教えてください。

- ①20 歳未満 ②20 歳代 ③30 歳代 ④40 歳代 ⑤50 歳代 ⑥60 歳以上

4.市内にお住まいの年数。

- ①5 年未満 ②5 年以上 10 年未満 ③10 年以上 20 年未満 ④20 年以上

（B）環境について

1. あなたが子供の頃（小学生から中学生の間）の春日井市の自然環境は、今と比べてどのような状況でしたか。

- ①分からない ②今よりも悪かった ③今と変わらない ④今よりも良かった

2.どのような環境問題に関心がありますか。（特に関心があるもの3つまで選んでください）

- ①大気汚染 ②川などの水質汚染 ③ごみ問題 ④廃棄物の不法投棄
⑤自然環境の破壊・消失 ⑥野生動植物の減少・絶滅 ⑦地球温暖化
⑧エネルギー問題 ⑨酸性雨 ⑩ダイオキシン・環境ホルモン ⑪安全性

3.あなたの住んでいる町はどのような環境ですか。（1つだけ選んでください）

- ①空気のきれいなまち
②川の水がきれいなまち
③自然が豊かなまち
④買い物や交通が便利で活気のあるまち
⑤食べ物や水がおいしいまち
⑥歴史文化資源や風土を生かしたうるおいのあるまち
⑦資源やエネルギーを大切にする暮らしや仕組みのあるまち
⑧子供から大人まで、みんなで環境をまもるまち
⑨美しい街並みや風景のあるまち
⑩共に助け合いながら安全を守れるまち
⑪その他（_____）

4.春日井市の環境をよくするために、緊急に取り組むべきことは何だと思いますか。

(特に大切と思われるものを1つ選んでください)

- ①空気をきれいにする
- ②川や池の水をきれいにする
- ③ごみの減量化やリサイクルをすすめる
- ④皆が身近で親しめる水辺や緑地を守る・作る
- ⑤生き物が生息・生育できる環境を守る・作る
- ⑥省エネを進める・自然エネルギーを活用する
- ⑦環境教育・環境学習への取り組みをすすめる
- ⑧環境に関する情報を市民に提供する
- ⑨特にない
- ⑩その他 (_____)

5.将来の春日井市の環境として、どのような環境を望みますか。(2つまで選んでください)

- ①空気のきれいなまち
- ②川の水がきれいなまち
- ③自然豊かなまち
- ④買い物や交通が便利で活気のあるまち
- ⑤食べ物や水がおいしいまち
- ⑥歴史文化資源や風土を生かしたうるおいのあるまち
- ⑦資源やエネルギーを大切にする暮らしや仕組みのあるまち
- ⑧子供から大人まで、みんなで環境をまもるまち
- ⑨美しい街並みや風景のあるまち
- ⑩共に助け合いながら安全を守れるまち

6.環境等に関するイベントなどに参加したことがありますか。

あるとすれば、内容を教えてください。(参加頻度が最も高いものを一つ選んで下さい)

- ①環境についての講演やシンポジウム
- ②身近な自然を見たり・知るための観察会
- ③ 市内の環境の現状や課題を知るための見学会
- ④その他 (_____)

A. 平均すると、その頻度は年間にどのくらいですか。

- ①1回
- ②2回
- ③3回
- ④4回以上

B. 問Aで①または②と答えられた方にお聞きします。

参加頻度を向上させるためには、どのようなイベントを企画したら良いと思われますか、
下記に記述願います。

7.今後、環境等に関するイベントなどで参加したいと思われるものはどれですか。

(1つ選んで下さい)

- ①環境についての講演やシンポジウム
- ②身近な自然を見たり・知るための観察会
- ③市内の環境の現状や課題を知るための見学会
- ④その他 (_____)
- ⑤参加したくない

8.環境に関する日常生活の中での取り組みとして、あなたがすでに取り組んでいることと、また今後取り組みたいと考えていることは何ですか。

A.極力ごみの出ない生活（ごみの減量・リサイクル・ものを大切にするなど）

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

B.エネルギーを大切に使う（電気をこまめに消す、省エネルギーなど）

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

C.水を大切に使う（節水や風呂の水を再利用するなど）

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

D.川や池の水を汚さない（洗剤の適量使用や生活廃水を川や池に流さないなど）

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

E.車ではなく公共交通機関や自転車、徒歩での移動

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

F.買物時で環境にやさしい商品を購入する

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

G.生き物の環境について調べる

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

H.家族や友人などと環境について話す

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

I.環境関連のイベントに参加する

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

J.その他（_____）

①すでに取り組んでいる ②今後、取り組んでみたい ③特に関心がない

(C) 学校及び東部丘陵（みろく山、築水の森、植物園など）について

1.少年自然の家の催しものに参加したことがありますか。 ①はい ②いいえ

2.（C-1）で「①はい」と答えた方にお聞きします。 平均すると年間どのくらい参加しましたか。

①1回 ②2回 ③3回 ④4回以上

3.少年自然の家の構内の林を散策したことがありますか。 ①はい ②いいえ

4.春日井市の都市緑化植物園に出かけたことがありますか。 ①はい ②いいえ

5.（C-4）で「①はい」と答えた方にお聞きします。

A. どのくらい時（目的）に出かけますか。 （_____）

B. 平均すると年間にどのくらい出かけますか。

①1回 ②2回 ③3回 ④4回以上

6.東部丘陵のビオトープの存在を知っていますか。 ①知っている ②知らない

7.あなたは日頃、どのような場所で自然観察を行いますか。(回答は3つまで)

- ①公園 ②空き地 ③川 ④山 ⑤池 ⑥学校
⑦その他の施設(名称: _____) ⑧関心がない

8.あなたの学校に自然観察をする場所がありますか。 ①ある ②ない

あると答えた方にお聞きします。それはどこですか。(回答は2つまで)

- ①校庭 ②プール ③建物内 ④その他(_____)

9.小学校や東部丘陵で、これからも続けていける活動として、どのような事に参加したいですか。

(一つだけ選んで下さい)

- ①子供のための観察会や体験教室 ②大人のための観察会や体験教室
③親子での観察会や体験教室 ④自然に関する各指導者養成事業
⑤美化活動
⑥その他(_____)

(D) ギフチョウなどの野生昆虫・動物について

1.ギフチョウを知っていますか。 ①はい ②いいえ

2.ギフチョウを見たことがありますか。 ①はい ②いいえ

3.ギフチョウの保全活動が、少年自然の家構内で東高森台小学校の生徒や市民の手によって行われていることを知っていますか。

- ①保全活動、観察会に参加したことがある ②よく知っている
③少し知っている ④知らない ⑤興味がない

4.ニホンリスの保全活動が、高森山で行われていることを知っていますか。

- ①保全活動、観察会に参加したことがある ②よく知っている
③少し知っている ④知らない ⑤興味がない

5.「ギフチョウ」や「ニホンリス」の保全活動で、どのような活動なら参加したいと思いますか。(回答は2つまで)

- ①ギフチョウの生息地の環境を良くするための工夫やエサを元気に育てるための草刈りなど
- ②ニホンリスの生態個数調査とエサやり
- ③ギフチョウ、ニホンリス等の観察会
- ④ギフチョウ、ニホンリスの研究・勉強会
- ⑤その他(_____)

6.ギフチョウやニホンリスの保全活動が、少年自然の家構内や高森山で市民や小学生の手によって行われていることを知って、参加したいと思われませんか。

- ①すでに参加している、又は是非参加したい
- ②参加してもよい
- ③将来又は暇ができたなら、参加を検討したい
- ④あまり興味がない
- ⑤興味がない

(E) 子供について

1. 子供たちに、将来どのような子供に育ててほしいと思いますか。

(一つだけ選んでください)

- ①健康で元気な子
- ②命を大切にできる子供
- ③頭のいい子供
- ④思いやりのある子供
- ⑤人当たりのいい子
- ⑥事の善悪をわきまえた子
- ⑦その他(_____)

資料 P

日 時	2007年1月12日（金）16：30～19：00
場 所	株式会社日立製作所 本社
出 席 者	株式会社日立製作所：杉山、渡辺 以上2名 ※なお、東海ラジオからは、則武プロデューサーら計3名が参加
目 的	ラジオ番組を通じて、リスナーへ「かすがいK I Z U N A」の周知とイベントへの参加率向上を狙う。
配付資料	かすがいK I Z U N A説明資料
議事録要点	下記の番組内容を検討した。 <u>（１）定期的な番組（ウィークリー／マンスリーの情報番組として編成）</u> ・ 4月から半年間、10分程度の枠で定期的に進捗状況を紹介する。 ・ 聴取者の興味を考慮し、一方的な情報提供に終始しないよう、春日井の自然やギフチョウなどの生物に関するクイズをメインに構成する（ひがたかネイチャー博士認定クイズと連動）。 ・ 聴取者の裾野を広げるため、東海ラジオの馴染みのタレントなどが進行を務める。 ・ 上記に加え、情報の質を保つため、専門家が解説にあたる。 ・ 聴取者を活動に巻き込むよう、事業のWebサイトと連動させる。 <u>（２）ラジオドラマ番組（単発のドキュメンタリ番組として編成）</u> ・ 毎年、実施されている社内のラジオドラマコンクールへの出品を検討する。 ・ 優良作品については、放送可能である。 ・ イメージとしては、1年間の活動記録を追うドキュメンタリ構成とする。 （渡辺敦子作成）

プレスリリース 中日新聞2007年2月18日発表

2007年(平成19年)2月18日(日曜日)

国が進める「持続可能な開発のための教育(ESD)」のモデル事業に、春日井市の高森村地区を中心とした自然環境再生プログラム「ひがたかネイチャー」(仮称)が選ばれ、実行委員会による実施計画立案が進んでいる。市内に生息する絶滅危惧(きん)種・ギフチョウをうつすか、という課題を入り口に、住民や学校、行政を巻き込んだ教育機会の創出を目指す。環境省のゴーサインができれば、計画は四月にも動き出す。

ESDは、環境や福祉、人権、平和などそれぞれの地域が抱える問題を地域全体で継続的に話し合うことで、人と人とのつながりを深め、まちづくり活動と同時に、さまざまな問題に積極的にかかわることができる人材の育成も目指している。

日本政府は二〇二二年、世界規模でESDを推進し進める「国連持続可能なための教育の十年」(二〇一五年―二〇二五年)を世界目標会議(ヨハネスブルクサミット)で採択。同年末の国連総会で採択され、世界各地で活動が始まっている。春日井市の「ひがたかネイチャー」は、市少年自然の家や学校内のレオトープ(生物や植物の生息地)でギフチョウやトンボの観察を続けている高森村地区の取り組みを、周辺地域へと展開させる計画。

ESDモデル事業 ひがたかネイチャー(春日井)

環境学習 地域一体で

昨年十月、全国七十五事業現在、環境市民団体、企業の中から環境省のモデル事業十事業に選ばれ、製作所などの計二十四人で組織する実行委員会が、大会をとりつ「ひがたかネイチャー」のイニシアティブを始める。実行委員会長の高橋司さん(左)は「コロフチョウなどの環境にとり重要な情報を収集、発表を行いたい」と思い、三年間通じた授業計画を作成。応用生物学を専攻する中部大生や周辺の農家、昔の状況を知る高齢者が先生を務める。また日立製作所の協力を得て、家庭でも親子で環境が学べるパソコン用プログラムを開発する。

近郊ナウ

児童から地域への発信も実施する。授業の中に検定試験を設け、合格者を「ギフチョウ博士」や「トンボ博士」に認定。博士は年に数回、学校などで保護者や地域住民と

来月、国が開始の最終判断

子どもから大人まですべての参加者の人間力向上や、地域力強化につながる取り組みになる」と実行委員会のメンバーは口をそろえる。

だが、事業スタートへは最後の難関が控えている。三月下旬にモデル事業に選ばれている十事業は環境省によって最終的に半数ほどに絞り込まれる。「ひがたかネイチャー」にとっても現在の最大の課題は、どうやって少しでも多くの地域住民を活動に呼び込むか。環境省の最終判断まで残り一カ月余り。実行委員会は会合を重ね新たなアイデアを出し合い、ベストの形で結果報告を持つ。

期待通りの通知が届けば、地域一帯を巻き込んだ新しい形の教育が四月から走り出すことになる。

記者の目

地域住民から学ぶ経験は、児童にとっても、得るものも多いだろう。また児童と交流する機会が増える地域住民も大きな役割を果たしてくれれば、民にとって大きな意味がある。と願う。(岡本士)

シンポジウム「保護者ESD」実施報告書

日 時	2006年2月15日（木）、16日（金）
参 加 者	春日井市小学校の保護者 15名 春日井市立東高森台小学校 大島教諭、PTA会長 梅田、同副会長 森田 以上 3名
目 的	次年度からの展開に向けて、保護者へESDの原則を伝える。また、保護者の教育観をヒアリングする。
実施内容	本シンポジウムは、東高森台小学校の保護者会終了後に、連続した行事[案内文：資料 R-①]として位置づけ実施した。15日には、低学年（1～3年）を対象に、16日は、高学年（4～6年）を対象とした。 ◆ 講演「ESD基本概念」（EPO・新海氏） ESD の概念や原則について、EPO 新海氏による講演を実施。子どもたちに養われる価値観や思考力などについて、考察を示した。 ◆ 東高森台小学校の環境教育の実践（大島教諭、PTA 梅田会長、森田副会長） ビオトープやギフチョウを教材とした環境教育の実践について、これまでの取組内容を紹介した。また、実績に ESD の観点を加え、今後、かすがい KIZUNA のカリキュラムと連携し、命を育む教育への発展について、説明した。 ◆ 保護者座談会「保護者が考えるESDと子の未来」 自分たちの子どもを育てるために必要な学習環境の整備について、討議を行った。座学と体験型の学習の融合を望む声が大きく、特に経験を知識に結びつける様々な学習機会の創出について、活発な意見が出された。 （作成：森田 智香）

平成19年2月8日

東高森台小学校保護者の皆様へ

ひがたかネイチャー実行委員会
会長 高橋 匡司

ひがたか自然環境教育を語ろう会

一人と自然を愛する子どもたちを育てる地域作りをしようー

学校のビオトープの池ではメダカの赤ちゃんが生まれススイ泳いでいます。自然界では少しの変化も見逃さず、周りの環境に正直に生きています。わたしたちは、暖かい冬が生活しやすいように思ってしまうことがあります、ふと、このままでいいのと考えることもしばしばです。

次世代を担っていく子どもたちには、算数や国語も大切ですが、新しい命をはぐくみ育てるこの地球の環境のことを考えていってもらわなければなりません。そのために、大人は今、何をすべきでしょうか。このことを、まず、地域でできることから話し合ってみませんか。

記

- | | | | |
|-------|---|--------------------------|--------------------|
| 1 日 時 | 2月15日(木) と 2月16日(金)
どちらも 午後3:50～午後4:30
(学習発表会→学年懇談会の後) | | |
| 2 場 所 | 東高森台小コンピューター室(北館4F) | | |
| 3 内 容 | <ul style="list-style-type: none">・東高森台小の環境学習について
ギフチョウの調査・観察・保護
ビオトープづくり、ビオトープの生き物
ヤゴの救出作戦・今後「ひがたかネイチャー」で活動しようとしていること・参加者による話し合い | | |
| 4 説明者 | 2月15日(木) | 東高森台小学校教諭
東高森台小PTA会長 | 大 島 加代子
梅 田 直 宏 |
| | 2月16日(金) | 東高森台小学校教諭
東高森台小PTA副会長 | 大 島 加代子
森 田 智 香 |

* 参加してよかったと思える会にしたいと考えています。是非、来てください。

「校長説明会」実施報告書

日 時	2006 年 2 月 2 日（金）
参 加 者	春日井市小学校の校長 38 名
目 的	次年度からの展開に向けて、市内の学校長を対象に、E S D の原則を伝える。また、学校長の教育観をヒアリングする。
実施内容	本シンポジウムは、春日井市内の小学校校長を対象に実施し、以下に関する説明を行った。 ◆ESD の基本概念に関する説明 ESD の基本概念を伝えるとともに、本市における取組内容を報告した。「かすがい KIZUNA」では、小学校が、地域におけるコミュニティの拠点になることから、現在の保護者や地域との連携状況について、課題を抽出し、対応策を検討した。 ◆ 小学校教育での展開に関する協議 19年度からの小学校におけるカリキュラム案を提示した。環境から共生、国際理解、福祉教育等への広がりについて、意見交換を行った。現在までの各校での環境教育は、現場での知識伝達型が多く、子どもたちが仮説をもって、追求していく活動場面を戦略的に設置していかなければならないという意識を共有した。 ◆ 実態調査の中間報告と追記調査に関する報告 春日井市内小学校5校における実態調査を踏まえ、保護者の期待する教育観を報告した。また、地理的条件における環境教育の実施における課題等について、抽出を行った。 本討議を経て、19年度からの教育プログラムの教育効果を検証する場面として、校長会に一部の審査員としての機能をもたせたいと考えている。 （作成：大島加代子）

本報告書に使用する用紙は、以下の設定とする。

古紙パルプ配合率 １００％

白色度 ７０％